

## 令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和3年5月27日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

#### 4 本校の実施状況

第4学年	国語	23人	算数	23人	理科	23人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	24人	算数	24人	理科	24人
------	----	-----	----	-----	----	-----

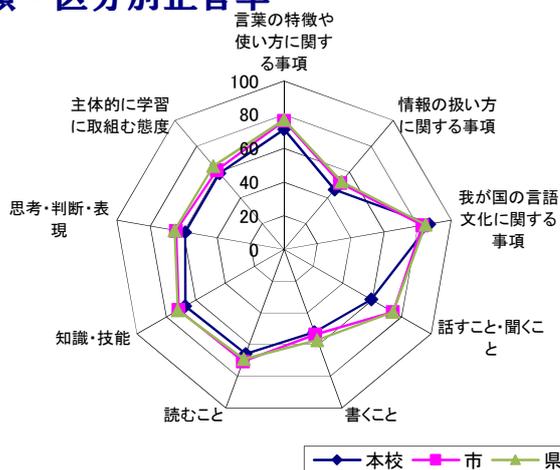
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立城山東小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	71.3	76.4	77.0
	情報の扱いに関する事項	46.4	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	87.0	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	59.4	74.1	74.2
	書くこと	52.2	53.7	57.2
	読むこと	65.9	70.7	69.2
観点	知識・技能	67.1	71.6	72.3
	思考・判断・表現	59.1	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	59.1	61.6	64.7



## ★指導の工夫と改善

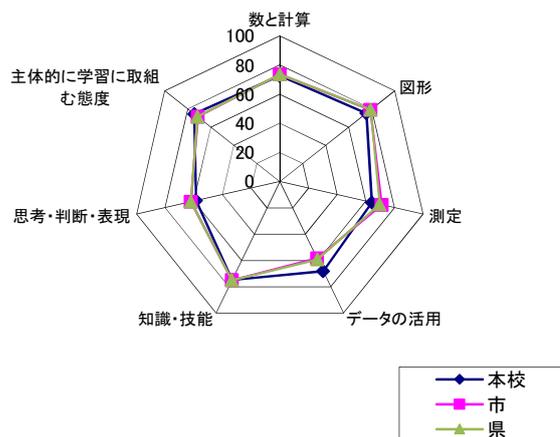
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均の正答率は、県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○第3学年の配当漢字の読みについては、どれも県の平均値の正答率であった。</p> <p>●「よそう」という言葉を漢字にする設問では、正答率が4割程度だった。漢字の書きについては課題がある。</p> <p>●主語や述語、様子を表す言葉に関する設問では、県の正答率より低かった。特に様子を表す言葉に関しては大きく下回っていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習漢字の確実な定着を図るために、朝の学習や家庭学習の課題等で、前の学年で習った漢字の復習をする機会を設ける。また、日常の中で既習漢字は必ず使うように指導していく。</li> <li>・漢字ミニテストを実施し、習熟を図る。</li> <li>・「宮っ子学習ステップアップシート」を活用し、漢字や言葉の定着を図る。</li> <li>・授業の中で、言葉の意味を考えたり、知らない言葉に関しては辞書を活用し、語彙を豊かにするような機会を設ける。</li> </ul>
情報の扱いに関する事項	<p>平均の正答率は、県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○国語辞典の使い方に関する設問では、県の正答率を上回っていた。言葉の並びや国語辞典に出てくる形の理解をしている。</p> <p>●説明文を読んで要約する設問やメモを見ながら文章を書く設問では、文章の中心となる語や文を見つけることに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も国語辞典を授業の中で活用するように努める。</li> <li>・授業や朝の学習などで、大事な言葉や文に線を引いたり、自分の言葉でわかりやすくまとめたりするなど、やり方やポイントについて様々な時間に指導していく。</li> <li>・物語だけでなく、いろいろな分野の本に親しむように声をかける。</li> </ul>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均の正答率は、県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○漢字の「へん」についての設問では、県の正答率とほぼ同じ程度で、漢字のつくりやへんについて理解している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も漢字学習のときには、漢字の形や書き順だけでなく、へんやつくりについても指導を続けていく。</li> </ul>
話すこと・聞くこと	<p>平均の正答率は、県の平均を下回っている。</p> <p>●話の内容を聞き取る設問では、正答率が5割ほどで話し手が伝えたいことを聞き取ることに課題がある。</p> <p>●相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら書く設問では、これも正答率が5割ほどで、意見を聞いてから理由をつけて自分の考えを表現することに課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科や学級活動等の話し合い活動を今後も取り入れ、一人一人が進んで話し合いに参加できるように努める。</li> <li>・発言のしかたの定着を図り、話し合いがより活性化するようにする。</li> <li>・理由や根拠を示しながら発表させ、表現力を育成する。</li> </ul>
書くこと	<p>平均の正答率は、県の平均を下回っている。</p> <p>●メモを参考に書かれている内容を要約したり、書いたりする設問では、県の平均を下回った。目的を意識し、集めた材料を比較したり、分類することに課題が見られる。</p> <p>●自分の意見を理由をつけて書く設問では、考えや理由を書くことについては、正答率は県の平均と同じ程度が高いところもあったが、文字数や段落など指定された条件通りに書くことに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の条件に合わせて書く機会を増やす。特に、文字数や段落の構成などの条件で自分の思いをまとめる活動を増やし、書く力の育成を図る。</li> <li>・段落の意図について取り上げる機会を増やし、読み取りや表現の際に役立てるよう指導する。</li> </ul>
読むこと	<p>平均の正答率は、県の平均を下回っている。</p> <p>○物語の登場人物の気持ちや説明文の内容を理解する内容については、県の正答率と同じ程度か上回っている。</p> <p>●場面の様子や段落の役割など細かい点に注意しながら、文章の内容を的確に読み取ることが課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語や説明文の段落ごとに読み取る機会を増やし、細かく何が書かれているのか授業を通して指導していく。</li> <li>・いろいろな形式の文章を読み取る機会を設け、力をつけていく。</li> </ul>

# 宇都宮市立城山東小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.7	73.5	73.6
	図形	75.4	79.0	79.1
	測定	64.3	71.1	69.8
	データの活用	68.1	58.4	59.2
観点	知識・技能	74.8	75.0	75.0
	思考・判断・表現	58.4	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	74.5	71.4	71.6



## ★指導の工夫と改善

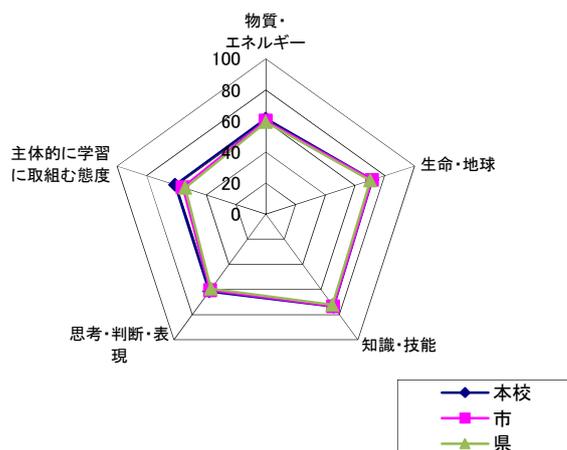
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均の正答率は、県の平均をやや下回っている。</p> <p>○わり算の文章問題で、あまりを切り上げて処理し、その理由を説明する問題では、県の正答率を上回っている。</p> <p>●計算については、<math>2けた \times 1けた</math>や<math>2けた \times 2けた</math>のかけ算で正答率が低く、課題があるといえる。</p> <p>○分子が1の分数が何個で1になるかや、分数+分数の計算など、分数に関する問題は、おおむね理解しているといえる。</p> <p>○あまりのあるわり算の文章問題の答えを求める問題は、おおむね理解しているといえる。</p> <p>○●小数の仕組みについては理解しているが、小数の相対的な大きさの理解については、課題がある。</p> <p>●□を使った式に合った文章問題を選ぶことや、□を使って式を表すことなど、□を使った式の理解については、課題がある。</p>	<p>・朝の学習や宿題では、今授業で学習している内容だけでなく、かけ算の筆算やわり算の筆算などを繰り返し復習し、計算の仕方を確実に身に付けることができるようにする。</p> <p>・数直線などを使って、数の相対的な大きさを捉える学習を多く取り入れる。</p> <p>・文章題では形式的に立式して解くのではなく、問題の場面をよく理解した上で、数直線に数の関係を表す学習を多く取り入れるなど、□を使って数の関係を整理できるようにする。</p>
図形	<p>平均の正答率は、県の平均を下回っている。</p> <p>○球の半径から球が1つ入った箱の辺の長さを求める問題は、県の平均正答率を上回り、おおむねよくできていた。</p> <p>○正三角形の作図の問題の正答率は95%を超えていて、よく理解できているといえる。</p> <p>●円の半径についての理解が5割であり、確認する必要がある。</p>	<p>・算数で使う用語の意味については、繰り返し復習を行って定着を図る。</p> <p>・図形に対する空間認知的思考を高めるため、様々な問題を解く機会を設ける。</p> <p>・作図については取り上げる時数が少ないので、意図的に時間を作り復習するようにする。</p>
測定	<p>平均の正答率は、県の平均を下回っている。</p> <p>○道のりの意味の理解は、おおむね理解しているといえる。</p> <p>●文章を読み取って、時刻を求めることに課題がある。また、<math>1分 = 60秒</math>の関係の理解が不十分である。</p> <p>●はかりのめもりの読み方について、理解が不十分である。</p> <p>●単位の前にkが付くと、もとの単位の1000倍になるという、単位の理解に課題がある。</p>	<p>・学校生活の中で、「集合時間は11時。あと何分かな。」など、時刻や時間についておさえることを繰り返しすることで定着を図る。</p> <p>・重さに限らず、長さやかさ、グラフなどを読み取るときに、必ず1目盛り大きさを確認することが重要であることを繰り返し指導する。</p> <p>・単位の学習をする際は、1リットルの牛乳パックは1000ミリリットルと表記されていることを話題にするなど、生活経験の中でも単位の関係について理解したり、量感を培ったりしりしることができるようにする。</p>
データの活用	<p>平均の正答率は、県の平均を上回っている。</p> <p>○●棒グラフの読み取りについては、県の平均正答率を大きく上回ったが、正答率は約7割であり、確認をする必要がある。</p> <p>○棒グラフの目盛りの大きさに着目して言葉で説明する問題については、県の平均正答率とほぼ同じであるが、無解答がなく、意欲的に問題に取り組んでいるといえる。</p>	<p>・グラフを読み取るときに、必ず1目盛り大きさを確認することが重要であることを繰り返し指導する。</p> <p>・算数に限らず、資料から分かることや読み取れることを言葉で表現する活動を多く取り入れる。</p>

# 宇都宮市立城山東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	61.5	60.2	59.2
	生命・地球	71.5	71.3	70.3
観点	知識・技能	73.6	73.4	72.3
	思考・判断・表現	61.6	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	60.9	55.9	54.2



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均の正答率は、市・県よりやや上回っている。</p> <p>○物の重さについて、物の形が異なる状態であっても重さは変わらないことを考察する設問では、県の平均を上回っており、授業で実験した結果をよく理解している。</p> <p>○電気については、電気を通す物体について理解する設問では、県の平均を上回っており、授業で身の回りの電気を通すものについて学習したことをよく理解している。</p> <p>●光の性質について、光のもつエネルギーが身の回りどのように活用されているかの知識の定着が今後の課題である。</p>	<p>・実験や観察などの体験を通して学んだことを振り返り、定着につなげていく。実験で出した結果を話し合いを通して、発展的な場面への意欲を高められるようにする。</p> <p>・光の性質については特に、基礎的な知識の定着を図るとともに、生活の中で活用されているものなどについて話し合う場を設けて、知識の拡充を図る。</p>
生命・地球	<p>平均の正答率は、市・県とほぼ同程度である。</p> <p>○日なたと日かげの地面の明るさ・温度について、グラフから情報を読み取る設問では、県の平均を上回っており、授業で実験からグラフを作り、考察した結果をよく理解している。</p> <p>●植物の育ち方については、記録カードから文にまとめる力や、グラフと記録カードの内容を結び付ける力が十分とは言えない。</p> <p>●昆虫の体のつくりについては、昆虫を見分ける点を問う設問で、正しく違いを説明できないという課題がある。</p>	<p>・植物の育ち方について、複数の児童の観察カードを取り上げて思考させ、授業のまとめにつなげる。</p> <p>・いろいろな虫の体のつくりを見分ける点(体の分かれ方や足のつき方、本数)を特に理解できるように、並べて比較する活動を入れていきたい。合わせて昆虫の共通点を理解することにもつなげていきたい。</p>

## 宇都宮市立城山東小学校 第4学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学びの基礎力についての設問では、「学校の宿題は、自分のためになっている」、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「ぎ問や不思議に思うことは、わかるまで調べたい」という設問では、肯定的に捉えている児童が多いことから、学習意欲が育ち前向きに取り組んでいることが分かる。

○社会的実践力についての設問では、「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがある」、「人と話すことは楽しい」では9割以上、「自分もっている能力を十分に発きたい」では7割強、「しょう来のゆめや目標もっている」では9割が肯定的回答をしている。豊かな心をもち、未来に向かって希望を持って生活していることがわかる。

○●学級での様子では、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の設問では肯定的な回答が多いことから、話し合い活動に進んで参加していることが分かる。一方「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」では肯定的な回答を示した児童が9割を超えているものの、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」では肯定的な回答は4割、さらに「どちらかといえばいいえ」と回答した児童も3割近くいた。聞くことの大切さだけでなく、話し合い活動を工夫し充実させ、自信を付けさせていきたい。

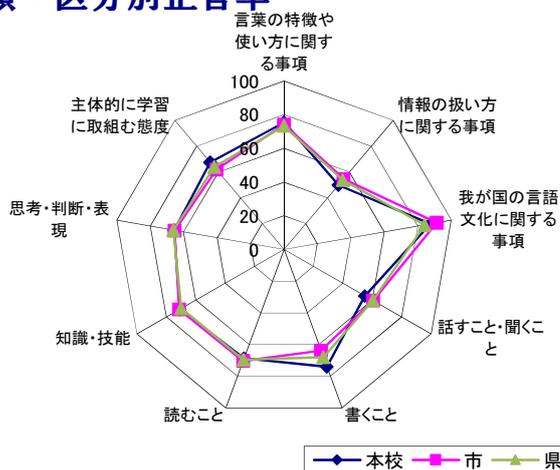
●家庭学習についての設問では、「家で学校の宿題をしている」の設問の肯定的な回答が高いものの、「家で、学校の授業の予習をしている」や「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」などの設問には肯定的な回答がやや低い傾向がある。決められたことに取り組むだけでなく、自分で計画を立て学習する習慣がつけられるよう、自主学習の取り組みなどを紹介し家庭学習の取り組みについて考える時間を設けていきたい。

●「自分はクラスの人役に立っていると思う」「自分にはよいところがあると思う」の設問では肯定的な回答がやや少なかった。自己肯定感や自己有用感がやや低い傾向にあることが分かる。児童の良いところを見取り、ほめて伸ばす指導を継続していきたい。自己有用感を高めることで更に学習への意欲を高めていきたい。

# 宇都宮市立城山東小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.4	74.2	73.3
	情報の扱い方に関する事項	50.0	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	87.5	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	55.0	60.6	60.4
	書くこと	74.0	63.8	68.0
	読むこと	68.8	70.4	69.6
観点	知識・技能	70.8	71.3	69.9
	思考・判断・表現	65.6	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	67.5	61.9	64.0



## ★指導の工夫と改善

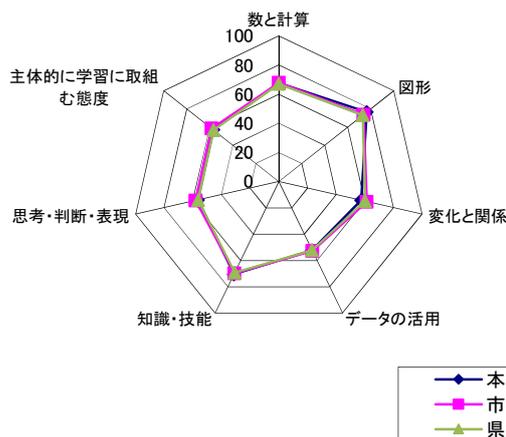
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	漢字の読み書きに関する平均正答率は、県の平均を上回っている。 ○4年生で学習する漢字の読み書きは、県の平均を上回っており、特に「苦労」「好む」は全員が読むことができている。 ●文の構成(連体修飾語)に関する問題は、4割を下回る正答率だった。「来週、新しい体育館がついに完成する」の「来週」が詳しく説明している言葉を選ぶ問題では、正しくは「完成する」だが、「体育館が」と誤答する児童が多かった。	・既習の漢字の定着を図るために、朝の学習や家庭学習で復習する機会を作ったり、ミニテスト等を行ったりする。 ・普段から既習の漢字を使って書くように促し、漢字を使う機会を増やしていく。 ・文の構成に関する問題に取り組む機会を増やし、定着を図る。
情報の扱い方に関する事項	平均の正答率は、県の平均をやや下回っている。 ○総画索引や部首索引などの漢字辞典の使い方を、約7割の児童が理解している。 ●情報と情報の関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話すことができた児童は4割弱で、県の平均を下回っている。	・漢字辞典や国語辞典を使い、調べ学習を奨励する。 ・キーワードを見付けたり大事なところに線を引いたりするなど、文章を読み取るためのスキルを身に付けさせる。 ・大切な情報を基に図示したり、必要な情報を基に書いたりするような機会を設けるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	ことわざに関する平均正答率は、県の平均とほぼ同じである。 ○「さるも木から落ちる」のことわざの意味を、約8割の児童が理解し、正しく使うことができている。	・ことわざに触れる活動を取り入れ、言語文化に親しむ機会を増やしていく。
話すこと・聞くこと	平均の正答率は、県の平均を下回っている。 ●話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える問題では、正答率が4割に達しておらず、話し手が伝えたいことの中心を捉えて聞き取ることに課題があると言える。 ○司会の役割を果たしながら話し合い、意見の相違点に着目して考えをまとめる問題では、正答率が7割を超え県の平均を上回っている。	・「話し手が何について話しているか」「伝えたいことの中心は何か」「自分の考えと同じところ・違うところはどこか」など、話の聞き方や話し合いの仕方についてのポイントを示して指導していく。 ・各教科や学級活動などの話し合いを通して、意見をまとめて整理することや、順序を示すことなどの司会としての役割を経験できるようにする。また、参加者としての意見の述べ方や、他の人の意見の聞き方、さらに話し合いのまとめ方など、実践的な活動を取り入れる。
書くこと	平均の正答率は、県の平均を上回っている。 ○読み聞かせ会に参加した一年生へのアンケートをもとにして、よりよい読み聞かせ会をするためにはどうすればよいのか考えを書く問題。約8割の児童が指定された長さで文章を書くことができている。 ●アンケート調査の結果から読み取ったことを2段落構成で書けたのは7割弱の児童である。	・文章を書くことに慣れていない児童が多いので、指定された段落数や文字数で自分の考えや文章を読んでまとめられる経験を増やしていく。 ・国語の学習以外でも、朝の学習や家庭学習で、書くだけでなく簡単な文章の読み取りも行っていく。
読むこと	平均の正答率は、県の平均とほぼ同じである。 ○物語文の読み取りでは、約8割の児童が登場人物の気持ちについて、叙述を基に文章の内容を読み取ることができている。 ○説明文の読み取りに関する正答率は、県の平均とほぼ同程度の約8割で、叙述を基に文章の内容を捉えることができている。 ●目的や必要に応じて場面の様子と登場人物の気持ちの読み取ることが県の平均を大きく下回っている。	・要点をとらえて読めるように、大事なところに線を引いたり、内容をまとめたりする等、読み取りの仕方の指導を行っていく。 ・国語の時間だけでなく、朝の学習や家庭学習で簡単な文章の読み取りの練習を行っていく。 ・読書の時間では、いろいろな本に触れられるように促していく。

# 宇都宮市立城山東小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.6	67.8	67.0
	図形	76.6	73.9	73.1
	変化と関係	57.6	61.4	60.2
	データの活用	52.1	52.7	52.1
観点	知識・技能	70.5	69.7	69.2
	思考・判断・表現	56.5	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	57.1	58.5	56.7



## ★指導の工夫と改善

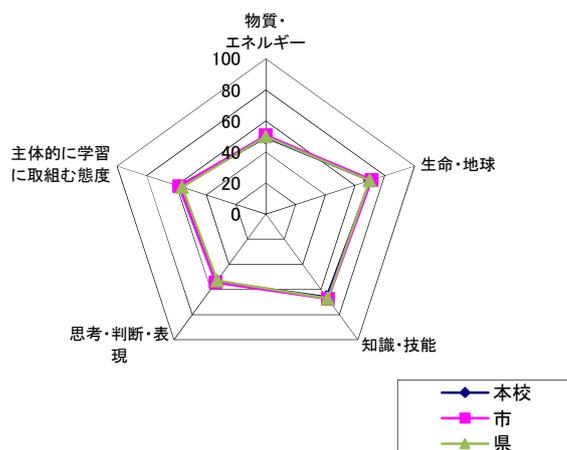
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均の正答率は、県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○億と兆・がい数の表し方の問題については正答率が9割程度と高く、理解できているといえる。大きな数の位取りや、がい数の表し方の理解は非常によくできていることがわかる。</p> <p>○●小数の仕組みについては正答率が9割と高く、理解できているといえる。しかし、小数の計算については、正答率の高い問題がある一方で県の平均を下回る問題もあり、課題があるといえる。小数第一位ー小数第二位の計算では、位をそろえて計算することの理解ができていない回答が多く見られた。</p> <p>●倍とわり算の文章問題においては、基準量と比較量の捉えができていないため、問題の場面に合った図を選び、式を考えることが課題となる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の系統性を意識し、新しい単元の学習の前に、その学習につながる既習の学習の振り返りをする時間をとることで、これから学習することの見通しをもつことができるようにする。</li> <li>・整数や小数などの、数の大きさの感覚、量感がつかめるよう、位を意識したり数直線に表したりする活動を多く行う。</li> <li>・小数のたし算、ひき算、かけ算、わり算と学習を進めていく過程で、その都度、それまでに学習してきた計算を織り交ぜて、様々なパターンの計算に取り組ませる。</li> <li>・文章題では、その問題では何を求めるのか、どのような計算になるのかが視覚的に理解できるよう、テープ図や線分図に表す活動を多く取り入れる。</li> </ul>
図形	<p>平均の正答率は、県の平均を上回っている。</p> <p>○分度器を正しく読み取る問題では、正答率が9割近く、理解できている。また、180度より大きい角度を求める問題では、正答率が7割以上であった。</p> <p>○図形の性質についての問題では、正答率が8割と高く、よく理解できているといえる。また、図形の性質を考えながら作図する問題でも正答率が8割近くと、理解できている。</p> <p>●千円札のおよその面積を答える問題では、正答率が5割に満たず、およその面積を考えることには課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図形の特徴と生活の中での図形とを結び付けて、身近なもののおよその大きさを考えられるようにする。</li> <li>・授業の中で友達に説明をするときは、目的をはっきりさせ、説明に使うキーワードを示すなど、算数の用語(本問題では、平行、垂直、道のり、等しい、辺ABなど)を使って分かりやすく説明できるようにする。</li> <li>・朝の学習(ぐんぐんタイム)で、複雑な図形の問題に取り組むなど、活用問題を解く時間を設ける。</li> </ul>
変化と関係	<p>平均の正答率は、県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○求めた割合を比較して、どちらがよくなるかを説明する問題では、正答率が県の平均より15ポイント高く、考えを言葉で表す力が身に付いてきている。</p> <p>○●伴って変わる2つの数量についての問題では、一方の値から、もう一方の値を答える問題についての正答率は9割以上と非常に高いが、その関係性を文字を使って式に表すことは正答率が低く、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伴って変わる2つの数量については、2つの数量の変化の中にある、決まった数や規則性を見付ける活動を多く取り入れる。</li> <li>・2つの量を比べる時には、なぜその答えになるのかという根拠を明確にして、説明する活動を取り入れ、言語活動を進めていく。</li> </ul>
データの活用	<p>平均の正答率は県の平均と同じである。</p> <p>○折れ線グラフを読み取る問題では、正答率が約8割と高く、理解しているといえる。</p> <p>●折れ線グラフと棒グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する問題では、正答率が約5割と低い値を示し、課題であるといえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数の時間だけでなく、社会科や総合的な学習の時間など他教科において、必要な情報を収集したり、目的に応じて表やグラフを用いて表したり、そこから読み取ったことを根拠に明らかにして説明したりする活動を意図的に取り入れていく。</li> </ul>

# 宇都宮市立城山東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	49.4	50.8	50.0
	生命・地球	70.3	71.1	69.8
観点	知識・技能	66.1	67.6	67.2
	思考・判断・表現	53.9	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	58.3	58.1	56.2



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>物質・エネルギー領域の正答率は県の平均値と同程度である。</p> <p>○「電気のはたらき」で直列と並列の回路に流れる電流の強さの違い、「水のすがた」の液体から個体になるときの体積の変化、「物のあたたまり方」の金属の熱の伝わり方では、正しい知識を身に付けている。</p> <p>●「月と星」の満月の一日の動きや、「電気のはたらき」の回路に流れる電流の向きが電池の向きによって変わる点、「物の体積と力」では押し縮めても水の体積は変わらないこと、「物の体積と温度」では空気・水・金属の温度と体積の変化の違いなどの内容で誤答が目立った。</p>	<p>・体験的な活動や知識を整理する時間など、計画的に学習を進め理科に対する学習意欲を高める。</p> <p>・「水のすがた」・「物のあたたまり方」では、実際に水を凍らせることで体積が大きくなり、容器が膨張する体験をしたり、空気や水、金属の実験器具を熱したり冷やしたりしたときの体積の変化を実感したり、五感を使って現象を感じ取れるような活動を進め、身近な現象に対する科学的な見方が出来るように促し、学習知識の定着や科学的なものの見方の定着を図る。</p> <p>・「電気のはたらき」の学習では、電池のプラス極マイナス極と電流の流れる向きとの結びつきを、実験などを通してしっかりと理解させる。</p> <p>・「月と星」の学習では、観察したりシミュレーションを活用したり、身近で観察される現象の理解が進むように工夫する。</p>
生命・地球	<p>生命・地球領域の正答率は県の平均値と同程度である。</p> <p>○「1年間の動物の様子」で秋・冬のころと夏のころをくらべて動物の様子の違いがわかること、「雨水の行方と地面のようす」で水が高い場所から低い場所へと流れて集まること、「天気のようにすと気温」の1日の気温の変化を表すグラフと天気との関係を説明することなど、普段の生活体験や観察・考察したことなど、科学的経験を生かすことがよくできていた。</p> <p>●「月と星」で月の見える位置や形の変化が時間とともにどのように変わるのか、「天気のようにすと気温」の温度計の正しくない測り方を選ぶこと、「雨水のゆくえと地面のようす」の水はけと土の粒の大きさとの関係を結び付けて考えることなどは、難しい問題だった。</p>	<p>・「1年間の動物の様子」では、季節ごとに移り変わる身近な自然に目を向けさせ、1年を通してその変化の様子を記録し、記録をくらべ違いに気づけるようにする。</p> <p>・「月と星」の学習では、昼の月が観察できる時期に学校で時間の経過による月の見え方の特徴を学習し、観察の仕方をしっかりと押さえたうえで、自宅でも月の見え方について観察できるようにする。また、PCのソフトなどを利用し、月や星の見え方のシミュレーションを体験できるように、指導の工夫を行う。</p> <p>・「雨水のゆくえと地面のようす」の学習では、校庭の土や砂を容器に集めて水をしみ込ませるなど、実験を通してものの特徴を捉えられるようにする。</p> <p>・方位磁針や温度計や虫眼鏡など、くり返し使う実験用具について、正しい使い方を何度も確認して身につけさせたい。</p>

## 宇都宮市立城山東小学校 第5学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学びの基礎力についての設問では、自ら学ぶ力の「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で、学校の宿題をしている」「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」や学びに向かう力の「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」では、県の肯定的割合を大きく上回っている。自分から学習に向かい、将来への希望をもって取り組んでいることが分かる。

○社会的実践力の設問では、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」という設問での肯定的な回答は8割強を超えている。また「将来のゆめや目標をもっている」の設問でも肯定的な回答が9割を超えている。自分の将来に夢や希望をもって生活していることが分かる。

○教科についての設問の「次の教科の授業の内容はよく分かりますか」では、国語と社会、理科では9割以上、算数では8割以上の肯定的な回答であった。授業の内容を理解している児童が多いことが分かる。

○●学校での様子では、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができていく」の設問では、8割以上の児童が肯定的回答をしている。人の話をよく聞いて学習していることが分かる。反対に「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の設問では、肯定的な回答が6割を切っている。まずは小グループで、自分の考えを友達に伝える活動を多く持ち、自信を付けるようにしたい。

○●家庭学習については、「家で、学校の宿題をしている」の肯定的な回答が9割以上、「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的な回答が約8割と高いが、「家で学校の授業の予習をしている」ではやや低い傾向にある。決められた宿題はほとんどの児童が取り組んでいるが、予習力についてはまだ十分でないといえる。家庭学習の取り組みや予習の仕方などを紹介し、さらに自分から進んで学ぶ習慣を付けていきたい。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の設問や「自分には良いところがあると思う」の設問では肯定的な回答が県や市より低い傾向にある。自己肯定感や自己有用感がやや低い児童が多いと推測される。児童の良いところを認め伸ばす指導を心がけ、児童が力を発揮できるようにしていきたい。

## 宇都宮市立城山東小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
復習により定着を図る学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>前学年までの「宮っ子学習ステップアップシート(漢字・言葉・計算・図形・量)」の計画的な実施</li> <li>家庭学習での、漢字くり返し練習。</li> </ul>	<p>○国語の漢字の読みでは、4、5年生ともに正答率が県の平均を上回っており、繰り返し練習を行った成果といえる。</p> <p>●国語の漢字書きに関しては、正答率が県の平均を下回っているものもあり、繰り返し練習を行う必要がある。</p> <p>●算数の計算については、問題によって正答率に大きな差が見られた。重点を絞り、さらに効果的な復習を行っていく必要がある。</p>
言語活動の充実による主体的・対話的な指導の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>学び合い活動の日常化</li> <li>学び合わせるための課題設定や発問の工夫</li> <li>考えを書いてから話し合うなどの学習過程の工夫</li> <li>ペアや少人数グループなどの学び合い形態の工夫(※コロナ対策をする。)</li> <li>話し方・聞き方の段階的指導や話し合いのポイントを示した掲示資料の活用</li> <li>本を介しての学び合い学習の実践</li> <li>条件に沿った文章表現や振り返りの実施</li> </ul>	<p>○●国語の「話すこと・聞くこと」の領域では、4・5年生ともに、相違点に着目したり、理由や根拠を聞くことはできている。しかし、伝えたいことの本質を捉えることや、話し手の工夫を聞くことには課題がある。</p> <p>○質問紙における「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の質問では、4年生は約74%以上、5年生は83%以上が肯定的回答をしている。「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができる」では、4年生は約75%、5年生では約80%が肯定的回答をしており、4年生は県の平均とほぼ同じで、5年生は県の平均を上回っている。</p>
読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年20冊の必読書設定及び読書記録カードの活用</li> <li>家読の推奨(※長期休業中実施)</li> <li>読み聞かせボランティア等による読み聞かせの実施</li> <li>学級担任と学校図書館司書との連携による、本を介した学び合いの授業の実施</li> </ul>	<p>○1か月に読む本の冊数は、4・5年生ともに県の割合を大幅に上回っており、日頃から本に親しんでいることが分かる。</p>

<p>・実感を伴った作業的・体験的活動の充実</p>	<p>・様々な物や事象について、実際に大きさを調べたり確かめたりする作業的・体験的活動の充実</p> <p>・日常生活における身近な物を測ったり、身近な事象に目を向けたりする機会の、意図的な設定</p>	<p>●算数では、4年生の身近にあるものの重さの単位については、正答率が5割と県の正答率を下回っている。また、5年生の身近にあるもののおおよその面積についても、正答率が5割に達していない。今後も継続して作業的・体験的な学習を充実させ、長さや面積、かさ、重さなど、量の大きさについての感覚を身に付けさせたい。</p>
----------------------------	---	---

**★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと**

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<p>国語の漢字については、次々と進出漢字を学習するため、以前の物を忘れてしまったり、あやふやになってしまっていた。また、算数の計算については、問題によって正答率に大きな差が見られた。学習したそのときには理解できていても、新しい学習に移ったときに忘れてしまったり、新たに出てきた他の計算の仕方と混同してしまったりすることが課題である。</p>	<p>復習により定着を図る学習の充実(国語の漢字、算数の計算に重点を置く。)</p>	<p>・単元の導入の段階で、その学習につながる既習学習の振り返りをする時間をとり、これから学習することの見通しをもつことができるようにする。</p> <p>・単元のまとめや朝の学習、家庭学習などで、複数の単元の内容をまとめて復習する時間を設けたり、学習の共通する点と異なる点を整理したりして身に付けられるようにする。</p>